

めあてを高く
できるまで やれ

岡崎市立梅園小学校
校長室だより 13
令和 2年10月17日
こん どう ふみ ひこ
近 藤 文 彦



子供が考えるありんこ活動



【ありんこ活動の話し合いの様子】

今年度は通常とは違う時期から始まったありんこ活動でしたが、間もなく前期の活動を終えることとなります。前期ありんこ長とは1度だけでしたが、話をする機会を作ることができました。話をする中で、11人のありんこ長が、それぞれのありんこ活動を通して、「梅園小学校を日本一の素晴らしい学校にしよう」「梅っ子が学校生活を気持ちよく、そして楽しく過ごせるようにしよう」などの気持ちをもって、ありんこ長になっていることがよくわかりました。そして、ありんこ活動の仲間とともに、取り組み始めている様子もわかりました。私からは「ありんこ活動に思い切って取り組んでほしい」「こんなことできるのかなあとと思うような大胆なことも提案してほしい」とお願いしました。当番活動だけでなく、自分たちで考えた活動を創り上げる経験をしてほしいと考えています。前期で提案し、引き継いで後期の活動につなげることも考えられます。自分から考え実践する経験、物事を創り上げる経験は、子供たちが自分らしい未来を生き抜いていく力になると思います。ありんこ活動が、子供たちにとって有意義なものになるよう、教職員で指導・支援・助言していきます。

先日のありんこ活動での話し合いの様子を見ると真剣そのものでした。梅っ子スマイルでは、黒板いっぱいアンケート結果が書き出してありました。「挨拶がうまくできない理由」と「挨拶のコツ」を整理し、今後どのように活動を行うのかを見直していました。その後の朝の挨拶活動の様子を見ると、子供の目線に合わせてかがんでみたり、マスクで笑顔がわかりにくいので手を振ってみたり、立っている場所を変えたりと工夫する様子が見られました。また、クスノキ「なかよしくん」の近くの通路には、右のプレートが貼ってありました。話し合いでは採用されなかった案ですが、自分一人で挑戦しているそうです。挨拶をせずに下を向いて歩いているときに、通路に貼ってあるプレートを見て挨拶をする明るい気持ちになるように作ったようです。通路でははがれてしまったので、別の案を考えているそうです。とても楽しみです。



【あいさつくんのプレート】

目指せ 自分で考える避難

9月28日(月)に延期されていた防災訓練を行いました。今回は、休み時間に大地震が発生し、その後家庭科室から火災が発生したという想定で行いました。

休み時間が始まると、校内に「訓練がある」という興奮状態のような空気が流れていました。訓練の地震速報が流れると、子供たちの興奮した声があちこちで聞こえる中で、自分の身を守る行動をとっていました。

運動場では建物から離れた中央部分に集まりましたが、話し声はやむことがなく興奮状態でした。教師の注意で静かになりました。校内でも、慌てて走って教室に戻って机の下に隠れる子供がいるなど、命を守ることを考えた行動ができませんでした。どのような行動が適切なのかを判断できるように指導方法を見直したいと考えています。運動場にいた子供たちは、ボールや一輪車などをあちこちに放り出して避難するのではなく、ゴールの中に入れたり、そのまま避難場所まで持ってきたりする姿には感心しました。

5年生は、救助袋による避難訓練も行いました。本校の3階・4階に設置してある救助袋は真下に滑るタイプではなく、横に滑るタイプです。救助袋に入るところは、ベランダの手すりの上に乗らないといけいないので、経験しておかないと落下しないかと不安になります。



【運動場の中央部分に集まった子供たち】



【救助袋を使用する体験】

ピカピカに、磨く…トイレは、レベルを表す…

右は私の姿が写真に写りこむほどピカピカに磨かれた「通風口」です。校内にあります。清掃の時間に磨いてくれています。1学期には、ある女子トイレは、便器はもちろん、水を流すレバーやペーパーホルダーまでピカピカに磨かれていました。トイレトーパーを置く台にホコリすら積もっていませんでした。そんなトイレですから、いつもきれいに使われていました。これまで4階のトイレのレバーが動きにくかったですが、校務員さんの修理で軽くなっています。気持ちよく水を流すことができます。

トイレは、使っている集団のレベルを表すと考えています。トイレは校内で唯一ひとりになれるところ。いつでも気持ちよく使える空間になるよう努力しています。個室の使い方が悪かったり、右のように履物が乱れていたりすると悲しくなります。

誰も見ていなくても揃える。他の人のも揃える。
そんな子供を育てたい。スリッパはその目安なのです。

